

長崎県美術館 春のぽかぽか美術館

実施期間：平成29年4月22日（土）～平成29年5月7日（日）



【事業の内容・目的】

- 「海」をテーマに、未就学児の親子連れを対象としたワークショップやスタンプリー、絵本の読み語りといった活動を通して、幼少時より美術館に慣れ親しむきっかけを創出し、将来的な美術館利用者増大を目標とした。
- 海の中の美しい環境を、プロの絵本作家が絵で再現した壁面作品などを造作の一環として体感的に鑑賞し、海の生き物たちが楽しそうに過ごしている姿をみることや、活動の中で海の生き物を作ることで、美しい海の環境にあこがれる気持ちを育てる場を創出した。それにより美しい海の環境の大切さを感じ取り、将来海洋環境の保護に対する意識を高めることを目指した。
- 未就学児の間に、海に対する楽しい思い出が残るような体験の機会を多く提供することで海への親しみを高め、海に関わる次世代の育成を目指した。

活動の様子

1. GW プレイベント「ジンさんとお魚を描こう」

【開催日時】平成29年 4月22日（土）、23日（日）
11:00 ~ 15:30

【開催場所】長崎県美術館 運河劇場（正面入口前広場）

【参加者数】553人

【活動内容・目的】

- GW 事業の開催前に広報宣伝活動を兼ねプレイベントとして実施。
- 韓国の美術家の指導の基、参加者が絵の具を使って色とりどりの魚を描いたあと、美術館のガラス面に大きなクジラの形を模して貼った。
- 参加者の作品すべてを、魚の群れのごとくガラス面に張り付けていくことにより、海の中の風景が連想される展示とした。
- 制作や展示された作品を鑑賞することで、海の中の美しい海の環境にあこがれる気持ちを育て、美しい海の環境の大切さを感じ取って、将来海洋環境の保護に対する意識を高めることにつなげることを目指した。



開催場所の全景



参加受付の様子

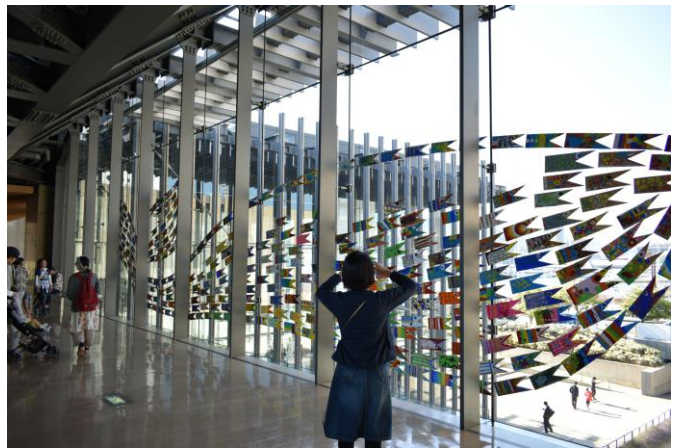
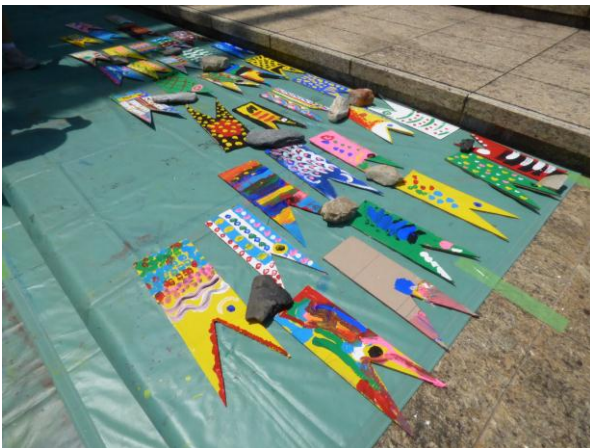


韓国の美術家の指導の基、事前に魚の形に切り取ったダンボールと準備済みの絵の具を用意しておくことで、未就学児でも簡単に参加でき、魚という海の生き物に対する愛着を育てる活動とした。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。



制作の初めに作家から参加者に対して、魚という生き物が、韓国では「裕福さの象徴」「家を守ってくれるもの」、そして日本では「こいのぼり」や「めでたい」に象徴されるように、子どもの健康と成長祈願であることや縁起の良いものであることを伝えることで、魚に対する良い印象を持って制作いただくことを心掛けた。



制作した作品が他の参加者の作品と共にひとつの群れとなり、その群れが大きな魚の形態として美術館のガラス面に出現することで、主な参加者である未就学児が海に関する楽しい思い出が残るような体験の機会とした。それによって、主な参加者である未就学児の海への親しみを高め、将来的に海に関する興味関心を持ち、次世代の育成につながる効果を見込んだ。参加者の中には、初日参加してみて楽しかったため、翌日も家族そろって参加いただいた親子連れも複数いた。このことから、多くの参加者にとっては、本活動で魚を描くことで、海への理解や親しみが育まれるワークショップとなったと思われる。

【参加者の声】

- 子どもと魚を感じられてよかった。
- 自分のオリジナルの魚ができたことが嬉しかった。
- 海は素晴らしい！！
- お魚さんのために、海は汚してはいけないなと思いました。

2. ワークショップ「おさかなブローチをつくろう」

【開催日時】平成29年5月4日（木）～7日（日）10:30～16:00

【開催場所】長崎県美術館 講座室

【参加者数】642人

【活動内容・目的】

- 未就学児の間に、海に対する楽しい思い出が残るような体験の機会を多く提供することにより、今後海に関わる次世代の育成を目指し「海にいそうな夢の生き物」をテーマに、家族連れを対象として作品を制作いただいた。会場は海の中を想起させる空間づくりをし、海や海の生き物に対する興味関心及び愛着が芽生えることを目指した。



開催場所の全景の様子



講師ザ・キャビンカンパニー



講師として絵本作家「ザ・キャビンカンパニー」を呼び、「海にいそうな夢の生き物」をテーマに、参加者に直接指導していただいた。プロの作家と直接触れ合うことにより参加者のつくる「おさかなブローチ」のクオリティも上がり、また普段出会うことのない作家との触れ合いの場を設けることにより、参加者満足度の向上を図りつつ、参加者自身が作り出す「海の生き物」に対する愛着を育むこととした。



具体的には8cm×8cmの正方形のダンボールを基に、いろいろな材料を張り付けていき、自分だけの魚を作っていた。一方で子どもたちが喜ぶような材料をふんだんに準備することにより、「海にいそな夢の生き物」制作が楽しくなるようにし、「海」または「海の生き物」に対する想像力や親しみが育つような内容とした。また、テレビ局からの取材も相次ぎ、参加者が自分のつくった海の生き物について、カメラの前で嬉しそうに語る様子も見られた。



作品である「お魚ブローチ」ができた後は、参加者の胸につけて帰っていただいた。その際、作家から参加者に対して「この後はブローチで作った海の生き物になったつもりで、美術館を楽しんでくださいね」と言葉がけをさせていただき、参加者が海の生き物の気持ちに近づくような働きかけをした。多くの参加者は作った「海の生き物」を誇らしそうに胸につけて、美術館でのその後も別の活動を楽しんでいる様子が窺えた。保護者からも海等について学ぶことが多かったとの感想も聞かれた。これらのことから、当初の狙い以上の成果が上がったと言える。また、本来の対象としていた未就学児以外の小学生児童の参加も多く、なにより保護者も喜々として親子で一緒に制作をしていた様子が印象的であった。

【参加者の声】

- 「(子どもが) 海の生物に興味を持つようになった」
- 「子どもが海の生き物に親しむ機会が必要だと感じた」
- 「海をもっと大切にすることを学べた」
- 「海の中にいろいろな生き物がいる事を学んだ」

3. スタンプラリー「ペったん！ Hancock船をつくろう！」

【開催日時】平成29年5月4日（木）～7日（日）10:30～16:00

【開催場所】長崎県美術館 アトリエ

【参加者数】1521人

【活動内容・目的】

- 長崎に因んだ品々9種類をあしらった、帆をかたどったハンコを室内に設置した。一方、帆の部分だけが欠けた南蛮船が描かれた紙を参加者には渡し、設置されているハンコの中から4種類選び、その紙に押ししていくことで、自分だけの南蛮船をつくる活動とした。
- ダンボールで作った船や大きな海を連想させる平面作品等を展示することで、美しい海の環境にあこがれる気持ちが育つことを狙いとした。



開催場所の全景の様子



会場設営風景



長崎県美術館の所在地は出島であり、そもそも出島沖の海の上であったところでもある。このような経緯から、当時出島沖を往来していたであろう「南蛮船」をモチーフに、自由度の高いスタンプラリーを実施した。台紙デザインもスタンプイラストもプロの絵本作家に依頼することで、デザイン的にクオリティの高いものとした。特にスタンプイラストにおいては、主に長崎に因んだものを9種類、具体的には十字架、ハタ（長崎の凧）の模様、クジラ、南蛮人、蛇（龍）、トビウオといった、長崎の文化に根付いているモチーフをあしらったものを設置した。一方、参加者には入口で帆の部分だけが欠けた南蛮船が描かれた台紙を渡し、参加者が設置されているスタンプの中から、好きなものを4種類選び、台紙に押ししていくことで、自分だけの南蛮船をつくれるようにした。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。



スタンプラリーだけでなく、会場造作としてダンボールでつくった船や大きな海を連想させる平面作品を展示し、撮影コーナーも設置した。同時に作家が制作した海をテーマとした映像作品を常時プロジェクターにて大画面で映し出し、海をテーマとしたアートな空間づくりをすることで、美しい海の世界にあこがれる気持ちが育つようにした。更に参加者が自由に読めるよう、会場内にて設置した宝箱の中に、海に関連した絵本を配置することで、海に対する親しみを高めてもらうことを狙った。



親子で一緒に南蛮船の帆のハンコを選ぶ行程を経ながら、参加者が「船」という海を象徴するものをつくることで、海に親しむ素地づくりとなった。保護者からも、「スタンプという小さな子どもでも気軽に参加できる内容が良い」「ダンボールでつくられた船の造作物が面白い」「映像のクオリティが高くて素晴らしかった」等の声が聞かれた。これらの体験を通し、参加者からのアンケート結果でも、海に対する想いが深まったと思われる感想が多くみられた。

【参加者の声】

- 海についてもっと学びたい。
- ポコポコと聞こえる音が、海の中にいるようでした。
- 海にはいろんな生き物がいて、その中にもたくさんの種類がいるんだということを知った。その生物を守るために海を大切にしなければいけないこと。
- ワクワクした気持ちになり、子どもが楽しそうにしていたので嬉しかったです。
- 皆で海の絵をバックに写真が撮れたことが良かった。

4. ミニミニワークショップコーナー

【開催日時】平成29年5月5日（金）～7日（日）10:30～16:00

【開催場所】長崎県美術館 エントランスロビー

【参加者数】738人

【活動内容・目的】

- 1日3回、3種類の海の生き物をつくるワークショップを実施した。制作物を未就学児の、発達段階に合わせたものとし、分かりやすく簡単に作れる作品とすることで、誰でも気軽に参加できることを目指した。また、親子で海の生き物を楽しく制作しながら、海の生き物の生物的な特徴や長崎の人×海の文化を学ぶことで、海の生物に対する知的な好奇心が芽生えるきっかけづくりを目指した。



開催場所の全景の様子



作品制作の様子



「ぐるぐるウミヘビ」「ゆらゆらクラゲ」「くじら」の海の生き物をつくるワークショップを実施した。

「ぐるぐるウミヘビ編」では、「こんなウミヘビがいたら…」と自分の思い描くウミヘビをシールやペンを用いて作った。「海にヘビがいるの？」と驚く子どもが多く見られた。



「ゆらゆらクラゲ編」では、クラゲをつくることを念頭に、紙皿とカラー紙テープを主な材料として、参加者が思い思いの顔を描き込み制作した。夏になるとクラゲが美術館の中央を流れる運河に頻りに泳いでくるところを伝え、少しでも海や美術館に関心を持っていただけるよう工夫した。それらの制作過程を通して、海の生き物が日常生活とそれほど遠い存在ではなく、むしろ身近な存在であることを感じていただけたようである。



「くじら編」では、クラゲ編と同じく紙皿を主な材料としてクジラを彷彿とさせる形をつくり、それにカラーマジックペン等で着色することで、参加者が思い浮かべるクジラを制作いただいた。制作の合間に、元来長崎の人にとって馴染み深い鯨文化を紹介しながら、紙を切りペンでデコレーションして作った。参加者は制作を通して、鯨と長崎の人の文化を知るきっかけになったようである。なお、今回3回とも異なるモチーフを設定しての実施であったが、リピーターが多く、3回とも参加される参加者も少なからずいて、海の生き物づくりを通して、海やそこに住む生き物に対する想いを語りながら、親子での会話に花を咲かせていたようであった。

【参加者の声】

- 子どもに海の生き物に親しむ機会が必要だと感じた。
- たこさん、クジラさんって色々な海の生き物たちを身近に感じることができました。
- 子どもがもの作り大好きなので楽しんでます！！
- 海は気持ちいいと感じた。
- 海の生き物がたくさんいるんだと感じました。
- 海には沢山の（生き物の）種類がいることを改めて感じました。沢山の魚が過ごしやすい環境が大切だと思いました。

5. 絵本の読み語りコンサート

【開催日時】平成29年5月6日（土）11:30～12:10、14:00～14:40

【開催場所】長崎県美術館

【参加者数】290人

【活動内容・目的】

- 参加者が、美しい海、または楽しい海が連想される絵本を、クオリティの高い音楽とともに鑑賞することで、海に対する美しく楽しいイメージを定着させること。
- 主な参加対象となる未就学児が、親子一緒にプロの読み語りアナウンサーの読み語りや演奏家のクオリティの高い音楽を鑑賞することで、心地よい空間に浸りながら、未就学児にとって海に関する楽しい思い出となることを期待した。結果として海への親しみを高めていただくことで、今後の海に関わる次世代の育成を見込んだ。



開催場所の全景の様子



実施風景



プロの読み語りアナウンサーが絵本を見せながら大きな動きをする、また絵本自体も大きく動かすなどにより注意を集めた。そこに演奏家の即興音楽をあわせることで自然と目と耳にも訴え、子どもの想像力・情操を養うものとした。海の不思議さ・怖さ・美しさも併せて伝わる本を選択し、興味を喚起し心地よい音楽とともに受け入れやすい環境を作った。低年齢の子どもには見るだけできれい・楽しいがわかりやすいものとした。



本は、海に関連した以下の絵本 5 冊を使用した。

「によっ！（キャビンカンパニー作）」・・夜と朝の境界のようなちょっぴり不思議な色の海から海の何かが出てくる？「じんべえざめ（新宮晋作）」・・海の人気者じんべえざめが悠々と泳ぐ姿をダイナミックに描いた絵本。「ファインディングニモ」・・人間にさらわれたカクレクマノミのニモを父親が取り戻す旅に出る。「スイミー（レオ＝レオニ作）」・・兄弟をマグロに食べられたスイミーが仲間と力を合わせてマグロに立ち向かう。「魚がすいすい（tupera tupera 著）」・・色とりどりの紙のコラージュで美しく描かれた、読んで飾れるジャバラ絵本。



その他ステージ前の乳幼児・幼児鑑賞スペースに絵本を設置。「だいちゃんとうみ（太田大八作）」、「こわくないよ にじいろのさかな（マーカス・フィスター作、谷川俊太郎訳）」など海を題材とした絵本を置き、乳幼児らが自由に閲覧できるよう環境を整えることで、海へのイメージを誘う本イベントへの導入とし、開演前は、これらの絵本を読みながらくつろぐ子供や親子が海について親しみを高める様子がみられた。

音楽は、波・静かな海・荒れる海などの情景が伝わるような効果音のような使い方をしたり、あえて海ではあり得ないような音で興味を引いたりした。

【参加者の声】

- 海が大切で大事にしようと思った。
- 海の絵本で、海の楽しさ、広がる想像力を感じることができました。
- 子供が魚に興味を持ってくれたことがよかった。

【事業全体のまとめ】

・これまで本事業では、子どもたちやその保護者を対象に、美術館へ親しんでいただくといった視点のみで事業を展開していたが、今回「海の学び」という新たな視点が加わったことにより、参加者が美術館に親しみながら、海に対する学びも深まるという学習効果も認められ、より意義深い事業となった。

・海の中の美しい環境を、プロの絵本作家が絵や映像で再現した壁面作品などを造作の一環として体感的に鑑賞し、海の生き物たちが楽しそうに過ごしている姿をみることや、活動の中で海の生き物を作ることで、美しい海の環境にあこがれる気持ちを育て、美しい海の環境の大切さを感じ取って、将来海洋環境の保護に対する意識を高めることができた。

・来館者が海に関連した作品づくりやプロの作家による造作物との触れ合いを通して、海の生き物や船といったものへの愛着を育み、海洋に対する興味関心を育てることができた。具体的には、「魚のブローチづくり」「海の生き物づくり」を通して、魚や海の生き物の形態を意識した作品づくりをすることにより、海の生き物への愛着を育てる活動となった。

主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1. 長崎県美術館アートボランティア	活動内容における参加者への積極的なサポート実施。
2.	
3.	
4.	
5.	

※主に教育機関や地域団体、他館などを中心に記載。表が不足する場合等は適宜増減すること

主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1. まいふれ (web)	平成 29 年 4 月 19 日
2. ARTNE (web)	平成 29 年 4 月 28 日
3. 長崎新聞 (新聞)	春のぽかぽか美術館 キッズふれアートはじめてミュージアム、平成 29 年 4 月 28 日
4. ととって (雑誌)	みんな de みんな 2 週間イベントカレンダー 平成 29 年 4 月 30 日
5. イブニング長崎 (テレビ)	平成 29 年 5 月 4 日
6. あっぷる (テレビ)	平成 29 年 5 月 4 日
7. みんなのニュース (テレビ)	平成 29 年 5 月 4 日
8. スーパーJチャンネル長崎 (テレビ)	平成 29 年 5 月 4 日

※TV・新聞・雑誌等、主なものを中心に記載。表が不足する場合等は適宜増減すること

以上